

当館から市歴史博物館・養浩館への道案内です。福井城址を経て、JR 福井駅まで。移動時間だけで徒歩 30 分ほどの、散歩コースとしてご参考にして下さい。



グリフィス館前出発。北へ向かいます（写真奥、大通りの信号）



写真右側が旧城内（桜門）。左側が旧城下町。その境目にあたる「片町」を北へ進みます。信号を渡って直進して下さい。旧城の西の縁に沿って進むことになります。



片町商店街は現在飲食店の多い街ですが、グリフィス夫妻が来た昭和初期には劇場が並ぶ中心的繁華街でした。有名なカツ丼やお菓子の看板が見えますね。



商店街北側出口です。右折して東へ進みます。ここで大通りを渡ってもいいですが、ブータンミュージアムにお寄りの方は、後で構いません。グリフィス館からここまで約5分。



裁判所を左に見て進み、その角の交差点（福鉄電車が通っている大通り）で左折して再び北へ進みます。ブータンミュージアムは交差点を直進して渡った所にあります。



「仁愛女子高校」の電停を過ぎた所の信号で大通りを渡って東へ（写真奥の神社の方向）。ちなみに、この写真を撮っているあたりが、旧城北側の外縁（お堀跡）です（振り返ると水路が見えますよ）。



水路は高校の横で折れて更に東へと続いています（後ほど、また出会います）。
写真正面の神社境内へ入ります。

（写真の橋を渡った所に、福井の女子教育功労者「禿すみ」の碑があります）



神社に隣接する公園の中に、松平春嶽第一の寵臣中根雪江の像があります。彼の家がこのあたりでした。公園すぐ外の住宅の前に碑が建っています。(南西角の斜め向かい。高校から見て南側)



福井の人から「おしんめさん」と呼ばれ親しまれている神社です。初詣の時は人でいっぱいです。写真は南側から撮っています。神社前の道路を東へ進みます（写真の右方向）。グリフィス館から約10分。



西別院前の参道と交差します。横断して、突き当たるまで直進して下さい。
(この場所から、右手には県庁、左手商店街の先には西別院の大屋根が見えます)



突き当りの左手に、この建物が見えます。写真右方向に正面玄関がありますが、左方向（北）を先にご案内しておきます。



福井城北の出入り口だった舎人門（復元）です。北から撮っています（写真奥が博物館建物）。女子高の前で見た水路に再会しました。グリフィス館から 15 分。



正面玄関右には松平春嶽像。市立郷土歴史博物館のコレクションの中核は、春嶽公の御子孫が寄贈された、「松平春嶽公記念文庫」です。それで幕末期の史料が充実していますが、福井の町の歴史全体がよくわかる施設です。



博物館の横は公園です。（北から撮っています）その東側（写真の左）に隣接して、「養浩館庭園」があります。「お泉水（せんすい）」として親しまれる、大きな池の美しい、静かな大名庭園です。



養浩館（写真右）の北を、水路（旧城北縁の外堀の名残）はさらに東へ続いています。後ほど国際交流会館前の案内図をご紹介しますので、ご確認下さい。



養浩館（写真右）の東に出ました。（北から撮っています） この道を南へ（写真奥、電波塔の見える方向）進んで、大通りに出ましょう。



大通りに出たら左手の信号で南側（交番の方）へ横断しましょう。横断したら右折して西へ進みます。写真左手に見えるのは、国際交流会館前を流れる芝原上水です。

福井藩では芝原上水を厳重に管理し、ゴミや雪の投棄、汚濁なせしめられたり罰せられた。近代になると上水道の普及に伴い、飲料水としての役割はだいに薄れ、灌漑用水・防火用水として主に活用された。



保存を望む市民
貴重な歴史遺産
ある。

なお、現在は
「芝原を美しく
している。福井
水)」が、市民
いと活力を与

The "Shibahara
water to the town
It got its name b
Shibahara area
In 1996, a stone
historical asset fr
Due to the love
cleaned up and
lives for years

藩政初期につくられた、最も重要な都市インフラのひとつでした。（写真は国際交流会館前にある案内板です。道路は現在と全く違いますが、ここまで概ね旧城の外縁をめぐって来たことがお分かりになりますか？）



交番前から大通りを西へ進みます(カトリック教会、NHK を右手に見て通過)。旧城の北、三の丸あたりを歩いています。



歩道橋が見えたら、その手前の信号の交差点で左折します。(直進すると左手に順化小学校、ブータンミュージアム) 左折すると、すぐに本丸のお堀が見えますので、そのまま直進して本丸の中へ進んで下さい。



本丸はグリフィスが教師だった頃の藩校「明新館」跡地でもあります。こちら側（北）からは車は入れませんが、歩行者と自転車は入れます（写真左）。本丸に入るとすぐ右手に駐輪場があります。



福井城本丸は今も町の中心ですが、敷地を官公庁が占めていて観光地にはなっていないので、だいたいいつものどかです。お堀にはいつも水鳥の姿があります。



本丸の中に入ってすぐ、右手駐輪場（写真右）の奥の小道（写真でトラックが駐まっている方向）へ進んで下さい。すぐに天守台の石垣が見えます。



階段があるので登りましょう。(天守閣は 17 世紀なかばの大火で失われて以来再建されませんでした。江戸城と同じですね)



天守台の井戸、「福の井」です。地名の由来と言われたりもしますが、元々「福居」（ふくゐ＝福井）なので後づけでしょう。「福居（ふくゐ）」（越前松平家三代忠昌による）命名以前の地名が、「北ノ庄」です。



大きくゆがんだ石垣が、かつて福井を壊滅させた大震災（1948＝昭和二十三年）を今日に伝えています。空襲（1945年7月19日）で焼け野原になった町が、復興へ歩み始めたばかりの時でした。



天守台から見下ろす、かつての二の丸・三の丸です。中央公園になっています。写真奥に「佐佳枝廼社」が写っています。徳川家康（と藩祖秀康、および春嶽が主祭神）を祀る神社です。つまり東照宮ですね。



天守台から北西をのぞみます。裁判所（震災翌年に起工した、復興の象徴）の手前に、春嶽公を祀る「福井神社」（摂社に名臣中根・鈴木・橋本を祭祀）が見えます。逆方向（東南）は本丸内建造物で眺望はありません。



天守台を降りました。まっすぐ進めば（写真奥、生保ビルの方向）「御本城橋」を渡り直進してすぐ駅に着きます。写真右（西）へ折れて「御廊下橋」から中央公園へ出るルートをご紹介します。



「御廊下橋」手前の櫓門が再建されています。写真右手から櫓の上に上がれます。門をくぐって橋を渡ります。グリフィスと生徒たちはくぐったのでしょうか。



橋を渡って振り返って撮っています。櫓門の笏谷石の瓦が白く見えますね。今、立っている場所が旧城二の丸です。三の丸（旧・藩主御座所）と合わせて「中央公園」になっています。左手すぐに福井神社があります。



震災当時の市長熊谷太三郎の銅像と、その両脇に新旧の記念碑が建っています。右碑の製作者は当館「墮涙碑」のレリーフと同じく雨田光平です。熊谷の確かなビジョンと実行力が、現代の都市福井の基礎に深く貢献しました。



熊谷が市長に就任したのは空襲の翌々月、昭和二十年九月でした。お堀端南西角の向いに立つ観音様は、NTTの人たちが当時殉職した方々のために安置しました。駅前的大通りは、復興計画の基幹としてつくられました。

昭和二十三年六月二十八日、午後五時十四分終りに近づいた頃突如激震襲来。激浪に奔弄さるる船底の如き役所を飛び出し、市街に目を遣れば庁舎前の土蔵をはじめ潰れるものはすでに潰れ、数ヶ所に火の手が挙がるを見る。諸方の火煙は次第に市庁舎に迫る。私は熱気を避けながら、役所玄関前を災害対策本部にあて対応に取りかかる。遺体の安置、負傷者の加療、食糧の配給、罹災証明書の発行に関する方針を市民に知らさねばならない。私は同時にメッセージを贈ることを思いつき、自ら筆をとって、「百難屈せず、百折撓（たわ）まず、市当局を信頼して、一致協力、再建に邁進されたい」と大書した紙を戸板に貼って庁舎の前に立てた。既に夜は開け放たれ、市内の惨状は手にとるようであった。戦災から立ち上がったばかりなのに……。辺りに人なきを幸い、声を立てて思いきり泣いた。そして復興成った日には再びここに来て、そのときは心ゆくばかり喜びの涙にひたつてみたいと思う。『熊谷太郎自伝』より



南二の丸から撮っています。今はオフィス街ですが、藩政期は厩や蔵が建っていたのでしょ。グリフィスの通勤ルートですね。(写真奥にさっき渡った御廊下橋が見えます)



御本城橋前の交差点で右折すれば福井駅（の外壁の恐竜）が見えます。ここまでグリフィス館から徒歩 30 分ほどの道程でしたが、博物館の観覧や、お泉水でお寛ぎになる時間を足して、のんびり歩いていただければと思います。



お疲れ様でした。(右の竜脚形恐竜の足元に・・・)



(・・・小さいのもいますよ。我々の先祖でしょうか?)

手を加えてつくられ、最も広いと

面」図は、百間堀の東側より本丸
元町通りの交差点付近にあった
分は当時は百間堀の中でした。
描かれているように当時百間堀
伸櫓を見ることができました。
れていた石を用いています。

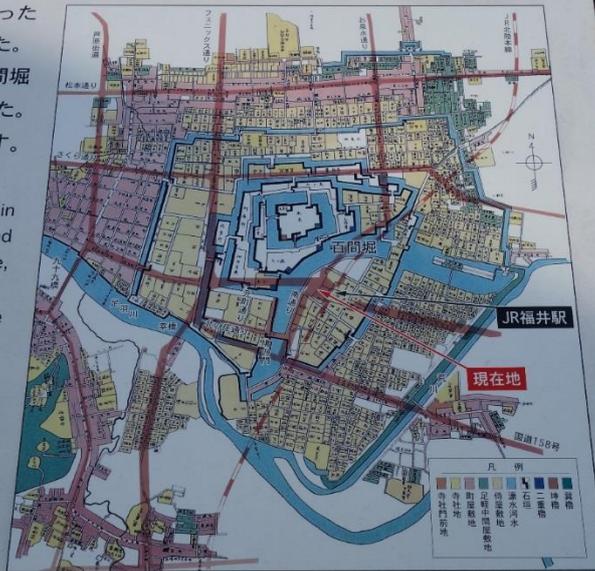
en (former Fukui prefecture) in
n built by Shibata Katsuei and
e was renamed to Fukui Castle,

s centering on Honmaru, the
he newly made moat. It was
e) was originally a part of a

e Fukui Castle in the period
d towers (Tatsumi yagura
).

protective wall built along

「百間堀及福井城東面」図 福井市立郷土歴史博物館所蔵
Painting: 「Hyakken-bori oyobi Fukurojo Tomeng」
In the possession of Fukui City History Museum



福井城下図 文化3年(1806)

松原信之『若越城下町古図集』より

地図の赤い太線が現代の道路です。「現在地」恐竜たちはかつての「百間堀」に面して立っています。現在の荒川が旧城東南外堀の役目を果たしましたが、城郭建設前の古い流路（吉野川）が「百間堀」となりました。



二百年の時間の旅でした。グリフィスが今の福井に来たら、この子たちとも友達になったでしょう。二億年の時間の旅は、駅の反対側（東口）「えち鉄」で勝山市の恐竜博物館へ、お越し下さい。ご来館ありがとうございました。